

海外教育
事情調査

韓国の教育

森崎岩之助



平成十五年度福武教育振興財団韓国教育事情調査団に参加して、大韓民国教育部（日本の文科省）を訪ね、学校教育政策部長等から韓国教育の概要を聞き懇談、続いてソウルの幼・小・中・高校それぞれ一校ずつと釜山大学校師範大学を訪問した。

全体を通して韓国の6・3・3・4を基本とする教育制度や各教科を中心とする教育内容、そして学力の向上や近年増加しているという、子どもの自己中



ソウル傍花初等学校の授業風景

心的な傾向への対応などの教育課題は、わが国のそれと酷似しているという印象を持った。

しかし、同時にわが国と大きく異なる点もあり、それが私の心に強く残った。それは、首都ソウルから四十〜五十キロ北には北朝鮮との休戦ラインがあり、それを挟む非武装地帯周辺では、南北合わせて百万人近い軍人が自国を守っているという現実である。特に、私たちが「生命の保障は出来ない」という覚え書きにサインして訪問した板門店では、常に南北の武装兵士が対峙する中で、緊張した空気を体感した。

また、休戦ラインから近距離にある首都圏に、国民の半数近い二千万人を超える人たちが、危機感を持ちながら生活しているという環境の中で、「国防」について、私たちの想像を越える特別な

意識を持つて生活していることも知った。私たちが訪問したすべての学校、すべての教室の正面に国旗が掲げられているのに強い印象を受けたが、いま休戦状態にあるという国情に無関係ではないように思えた。同時に、すべての青年が体験する二年間の徴兵制が人間形成に及ぼす影響にも思いを馳せたのである。

文化振興財団 文化関係助成

(平成十六年二月〜三月)

平成十六年度 助成の募集について

福武文化振興財団は、岡山県内の文化活動・調査研究を助成し、岡山県の文化の発展に寄与することを目的としております。

●対象
岡山県内で文化活動・調査研究を行っている個人・団体。（ただし、単なる趣味や同好のグループは対象となりません。）

●助成額
一件の上限：三十万円

●応募方法
市町村教育委員会等に配布した所定の申請書（HPからダウンロード）

平和で国境線をあまり意識する機会のないわが国の子どもたちにも、他国の人々の異なる生活や様々な考えのあることなど国際性を育む中で、「平和な日本・安全な生活」を意識し、国の在り方や自らの役割を考える環境をつくる必要があるのではないかと思うのである。

(福武教育振興財団 理事)

講演会のご案内

演題 「岡山文化の展開原理」

講師 吉備国際大学
教授 白井洋輔氏

日時 平成16年1月22日(木)
14時〜16時

場所 ベネッセコーポレーション
本社大ホール

参加費 無料

申込方法
ハガキまたはFAXでお名前（ふりがな）・ご住所・電話番号・参加人数をご記入のうえ、財団事務局までお申し込みください。

◆あけましておめでとうございます。皆様には、希望に満ちた気持ちで新年を迎えられたことと存じます。

◆昨年を振り返ると、表彰・助成事業の選考や審査に始まり、両財団の贈呈式、また、助成を受けた方々が活動の成果を報告する発表会等さまざまな行事がありました。新年を迎えまた新たな始まりです。気持ちを改めこの一年がさらにより充実したものになるよう努力してまいります。

◆さて、福武文化振興財団の主要事業の一つであります文化関係助成の募集が始まりました。今回も岡山県全域の方々からの多数の応募をお待ちしております。

◆また、一月二十二日には、吉備国際大学教授の白井洋輔氏をお迎えして、吉備の国岡山について文化講演会を開催します。この機会に岡山の歴史にふれていただきたいと思います。

◆今回ご寄稿いただきました方々に心から感謝いたします。とともに、当財団の表彰・助成事業が岡山の発展と向上にお役に立てるよう願っています。(野間)

編集後記

不 易

平成十五年度文化関係助成を受けて 鬼ノ城たたら倶楽部

代表 林 修

鬼ノ城たたら倶楽部は、平成十五年度文化関係助成により「たたらの日」を開催することができました。助成をしてくださいました福武文化振興財団に、改めてお礼を申し上げます。

「たたらの日」は、当倶楽部が年に一度行っている「たたら操業」を通じて、地域の皆さん方に古代吉備の国の歴史への興味を少しでも持っていただけたらと考え、開催することになった



たたら操業

文化講演会は、県内外の多数の人々のご来場のなか、白井洋輔氏、武田恭彰氏のお二人を講師としてお迎えし、古代吉備文化を支えた鉄をテーマとしたウィットに富み、内容の充実したお話を聞きました。来場者の反応も良く、講演後のアンケートにもほとんど



高橋伸明氏

「情報とのつきあい方」を身につける 学習を学校教育の中で

笠岡市立中央小学校 教諭 高橋伸明

昨年度まで四年間続けて教育研究助成をいただきました（共同研究も含む）。心より感謝致しております。こうした機会を与えていただきたびに、私は①

今後の当倶楽部は「古代吉備の国」と「鬼ノ城」にこだわり、次代を担う子供たちを巻き込み、地域に溶け込んだ活動を展開する予定です。

から炉の乾燥等の準備を始め、十二時から二十時までの間に砂鉄と木炭を交互に投入し、二十時三十分にはケラ（玉鋼）出しを行い終了しました。この操業には、地域の人たちと文化講演会に来場された方々も多数参加し、ものづくりの楽しさを全員で共有することができました。

実践研究がより行いやすくなり教育効果が高まる、②研究推進意欲が高まる、③成果を多くの方々に評価していただき力量が高まる、④数名での研究がしやすくなり同士の増やせる、等の成果を享受できると感じております。

私は情報教育の実践研究に取り組んでいます。この数年間で、情報教育に対する認識は変容しました。「コンピュータやイン

ターネットを使うこと自体が情報教育」と誤解されていた時期もありましたが、今では情報手段を使った問題解決的な学習を実施しない学校は皆無になりました。これは子どもの「情報活用の実践力」を育てるために不可欠な学習活動であり、まさにすべての学校で情報教育が実践されるようになった証です。

しかし課題も見えています。子ども任せで問題解決的な学習をただ繰り返しても、情報活用能力育成には結びつきません。情報教育が普及してきた今こそ、情報の特性・情報社会の仕組みを理解したり、情報社会とのかわり方を考えたりする学習内容を導入し、より本質に迫る教育を実施することが必要です。私は今、こうした「情報とのつきあい方」の学習を学校教育の中へ分かりやすく位置付け、その効果や必要性を明らかにする研究に取り組んでいます。

情報社会の「影」がクローズアップされる時代。学校教育は「したたかに・しなやかに」情報とつきあえる人材を育成する責務を担っています。私のつたない研究も、その一助となれば幸いです。

第19回教育講演会・第16回教育研究発表会

「プロ教師が目指す 新世紀の教育」をテーマに

福武教育振興財団は、十二月二十九日、第19回教育講演会及び第16回教育研究発表会を行いました。例年別に行っていた事業ですが、本年度は、「プロ教師が目指す新世紀の教育」をテーマに、「おかやま教育の日」の協賛事業として同日に実施しました。教育講演会には約二百六十人、教育研究発表会には約二百人の参加をいただき、有意義な催しとなりました。

教育講演会は、本年度福武哲彦教育賞を受賞された高旗正人氏（岡山大学名誉教授）を講師に迎え、「教師が変われば子どもが変わる」ということ」という演題でご講演いただきました。



教育講演会

高旗先生の講演の要旨「子どもが真に愛するものは、教師に対する愛着と尊敬と信頼の関係においてであり、子どもの変容を可能にする教育的関係をつくる力こそ、今の教育の最も大切な力である」ということ。



教育研究発表会第4分科会の発表の様子

英語研修助成

「大好き！英語」

高梁市立川面小学校
教頭 畦田 恵子



天からの贈り物かな
この夏のベルリッツ
レッスン缶詰なれど

福武教育振興財団の遠隔語学レッスン英語研修助成による「小学校教員英語研修」へ参加できたことは、私にとって夢の実現でした。
この研修では、聞く・話すを中心としたベルリッツレッスンを通して、基本的な英会話のレベルアップを図ることが目的なのです。十日間の、五十レッスンすべてを受けることができました。

この会を催すに当たり、ご協力、ご援助いただきました岡山県教育振興会、岡山県なでしこの会（以上共同主催）をはじめ、岡山県教育工学研究協議会、岡山県海外教育文化研究会、岡山県国際理解教育研究会、岡山県教育センター、岡山県情報教育センターの関係の方々には厚くお礼申し上げます。（古市）



テレビ画面を通しての語学レッスン

私を含め五名からなるAグループは、テレビの画面を通して教えてくださる先生方のレッスンに、ただただ集中しました。理解できる英単語が限られている私は、先生の質問の真意が聞き取れなくて、即答できない現実にも直面しました。そんなとき、「恵子さん」、「畦田さん」と優しく呼びかけ、分かりやすく説明して下さる先生方にどれだけ励まされたことでしょうか。ただただ私の答えを、「OK」とにこやかに受けとめてくださり、どれだけ救われた気持ちになりました。

私を含め五名からなるAグループは、テレビの画面を通して教えてくださる先生方のレッスンに、ただただ集中しました。理解できる英単語が限られている私は、先生の質問の真意が聞き取れなくて、即答できない現実にも直面しました。そんなとき、「恵子さん」、「畦田さん」と優しく呼びかけ、分かりやすく説明して下さる先生方にどれだけ励まされたことでしょうか。ただただ私の答えを、「OK」とにこやかに受けとめてくださり、どれだけ救われた気持ちになりました。

随想



児島湾岸の干潟の風景が失なわれて半世紀がすぎた。風物詩ともいえる鰻掻きの光景なども遠い記憶となった。
泥の中に腰まで入り鰻掻きという竿で泥をききまわすようにかきまわす。竿の先のカギに鰻の胴体があたると鰻は巻きつく。泥からはね出して漁獲するという漁法である。

うなぎと詩

詩人・第四回福武文化賞受賞者 三沢 浩一

昭和二十一年ごろは極度の食糧不足の時代であった。とにかく食べるものがない。今テレビでみる北の某国にそっくりの状況であった。数匹のハゼでも貴重な食料であった。休日にはハゼ釣りに出かけた。場所は笹ヶ瀬川河口の浦安の樋門口あたりである。
樋門の外は干潮になると干潟がひろがる。日没には夕陽が泥

を金色に染める。鰻掻きの人々のシエルエクトが点々と動く。知らない人がみると金でも掘っているかと思う光景だ。美しい風景であった。が、それを言葉で表現してみせるという才覚はなかった。十五歳のハゼ釣り少年はオクテでまだ文学を知らなかった。
数年後、縮切工事は着工され、三十一年には完成した。その前年、地元大学は卒業していたが就職先がなかった。そのころにはハゼ釣り少年は文学青年へと変身していた。東京へ行こうとのさそいもあったがためらった。他郷で生活し文学というアテにもならないことがなかった。怯懦な文学青年であった。なんとか地元で生きて詩を書きたい。（ここから先は職業の話になっていくので略す）
日常というものはあの泥の干潟のようなものである。干潟の泥は泥であっても多くの生命を育てる。鰻も棲んでいる。鰻掻きの人は泥から直接鰻をとって

暮らしとする。詩作ということも言葉の竿で日常の泥から作品をとりだすという作業である。泥からいのかいのかをとりだすという似た作業なのだ。
思えばあの鰻掻きの人たちも無見当に竿をふるっていたわけではあるまい。地形と泥の色から泥中の鰻をみていたにちがいない。そのためには経験と直感と技術が必要である。この三点が三位一体となったとき鰻はとれた。
詩作にもこの三位一体が必要なのだ。日常という泥の中のどこに詩がひそんでいるのか。それがみえてはじめてまずまずの作品が得られる。
詩の世界に入ってから二十数年目に第六回岡山市文化奨励賞をいただいた。谷口澄夫先生が審査員だった。それから二十四年目に谷口先生ゆかりの福武文化賞をいただくことになった。思ってもみなかった幸運である。谷口先生のご存命ならなんとおっしゃるだろう。かつての怯懦な文学青年はそのまま文学老年になってしまいました。きょうも先生の天からのお声を澄ませていきます。

平成十四年度 文化関係助成対象者による文化発表会

福武文化振興財団は、平成十五年九月十九日（金）に岡山市内のホテルで「文化発表会」を行いました。

昨年度文化関係助成を受けた六十四の文化団体のうち、十五の個人・団体が、一年間の活動の成果を関係者に披露いたしました。

ステージ発表では、「箏曲涛の会」による演奏や「朗誦塾」の皆さんによる『ごんぎつね』の朗読、「糸あやつり人形劇団つきみ草」による『かぐや姫』の上演などあわせて、それぞれの個人・団体の活動についても報告がありました。また、展示コーナーでは、「御津町獅子舞保存会」の獅子頭や、学校やPTAを対象に性教育の出前講座を行っている「りんごの会」

の紙芝居の展示などがあり、各地で展開されている文化活動の様子が生き生きと伝わってきました。

発表会後には、情報交換のための懇親会が行われ、参加の皆様は互いに活動の喜びや苦労など語り合いました。（笠井）



『みゆーじかる劇団 きんちやい座』によるステージ発表

◆ステージ発表◆

- 1 箏曲涛の会「哀歌」
- 2 きびの里音楽祭実行委員会
- 3 真庭遺産研究会
- 4 朗誦塾
- 5 糸あやつり人形劇団「つきみ草」
- 6 湯浅宣子
- 7 みゆーじかる劇団 きんちやい座

◆展示発表◆

- 1 田邑青少年健全育成会
- 2 御津町獅子舞保存会
- 3 社会福祉法人
- 4 岡山いのちの電話協会
- 5 特定非営利活動法人 岡山市子どもセンター
- 6 ハート・アート・おかやま
- 7 星空サマーコンサート
- 8 福社のまち御南
- 9 りんごの会
- 10 東備子どもNPOセンター
- 11 子ども部局「ひこうせん」